

新宗教新聞

信教の自由を守ろう
信仰心を広めよう
宗教協力を進めよう
世界の平和に貢献しよう

新宗連スローガン

第81回拡大宗法研

宗教団体と労働法制考える

紀藤正樹氏が諸課題について解説

新日本宗教団体連合会(新宗連、保積秀胤理事長)の宗教学者研究会(宗法研、仙波達治所長代理)は4月19日午後1時から、東京・代々木の新宗連会館で第81回拡大宗法研を開催した。

奉仕と労働 宗教界が整理を

紀藤氏は「一般の労働問題(賃金を支払われる者)と」になりかねない問題についてから講演を始めた。



紀藤氏は「労働問題(賃金を支払われる者)と」になりかねない問題についてから講演を始めた。

全国で平和学習会開催

「憲法改正と国民投票」テーマに

新宗連は今年度、「憲法改正と国民投票」をテーマに全国の総支部・協議会、平和学習会を開催する。

今年度初となる平和学習会、首都圏総支部(本間雅弘会長)が4月9日午後3時から、東京都杉並区の立正佼成会法輪閣で開催した。

新宗連

宗連や宗教界全体で考えていく必要があるのではと問題提起した。続いて「宗教(一般)における労働問題について」を解説。

例えは懲戒について、「信者資格の剥奪(破門)聖書の部分に関わる)は裁判が難しいが、それが労働契約解除(クビ)の部分)に關わる場合は裁判になる」と述べた。

また、「部分社会論」について解説し、「団体の中心に決まらずとも、法律や一般の秩序に抵触しない限り裁判所は判断しない」と述べた。

また、その際「奉仕が労働を分けるのは内心による部分が大い(その人がどういう気持ちで活動に従事しているか)と述べた。

また、その際「奉仕が労働を分けるのは内心による部分が大い(その人がどういう気持ちで活動に従事しているか)と述べた。



8.14式典 戦没者慰霊と平和祈願の式典

新日本宗教青年会連盟(新宗連青年会、宮口弘道委員長)は8月14日、東京・丸の内・千鳥ヶ淵公園で「8.14式典」を開催する。

また、その際「奉仕が労働を分けるのは内心による部分が大い(その人がどういう気持ちで活動に従事しているか)と述べた。

また、その際「奉仕が労働を分けるのは内心による部分が大い(その人がどういう気持ちで活動に従事しているか)と述べた。

アへの平和使節団派遣も連綿と続けられてきたことなどを解説し、これを踏まえ、「なるべく多くの会員信徒、そして国民が憲法について正しく理解し、国民投票にあたって適切な判断ができるよう、各県協議会、各教団、各教会・拠点で学習会を開催してほしい」と呼びかけた。

この後、弁護士・種田和敏氏が講演。種田氏は「明の自由を守る若手弁護士会」(通称若手若さわのメンバー)として、各地で開催される「憲法カフェ」(フリースタイルの雰囲気)で憲法について話し合う学習会を大切にする必要があると述べた。

また、その際「奉仕が労働を分けるのは内心による部分が大い(その人がどういう気持ちで活動に従事しているか)と述べた。

また、その際「奉仕が労働を分けるのは内心による部分が大い(その人がどういう気持ちで活動に従事しているか)と述べた。

また、その際「奉仕が労働を分けるのは内心による部分が大い(その人がどういう気持ちで活動に従事しているか)と述べた。

宗教をめぐるさまざまな問題のご相談窓口
宗教もしも相談室
03-3466-9900
受付●月曜～金曜/正午～午後4時

熊本復興支援活動 ラジオ放送が終了
1年5ヵ月にわたりのべ38人が出演
新宗連と世界宗教者平和会議日本委員会(WCRP)の共催で、熊本地震の復興支援活動の一環として2016(平成28)年11月から開始したラジオ放送「このころのハッピータイム」(熊本シティエフエム)は、熊本地震後、懸命に生きる被災者へ向けて、熊本の宗教者を中心に障害者支援NPO、新宗連加盟教団の代表者らが出演し体験な

8.14式典「開催」 SNSで広報
完成させ、式典への参加呼びかけを開始した。
「8.14式典」は教義や信条の違いを乗り越え、宗教協力の理念のもと、戦争の犠牲となった人々に慰霊と供養の誠を捧げるとともに、「絶対非戦」と「平和実現」への誓いを新たにすもの。入場無料、申し込み不要で、新宗連加盟教団員、信徒だけでなく、誰でも参加できる。
今回は昨年引き続き、「私のこころで伝えたい」をテーマに掲げた。戦争体験者が減少していく中で、戦争の記憶、悲愴、そして「8.14式典」で積み重ねられてきた「平和への願いと信念」を継承し、「私のこころ」を語り、「私」を目標とし、式典及びそれに伴う活動を展開していく。
また、今回から新宗連青年会はSNS(ソーシャルメディア)を活用し、式典への参加呼びかけを開始した。

世界宗教に関する初めての本格的な研究
療術から宗教へ
浄土宗の宗団組織論的研究
浄土宗と世界宗教の関係を論じた世界宗教研究
事例として、浄土宗の宗団組織論を中心に、浄土宗の宗団組織論を明らかにする
近現代日本の宗教変遷
実証的宗教社会学の視座から
寺田嘉郎・寺田高久・寺田伸之編著
本体価格3,800円税別

解脱会
新編 解脱金剛伝 全3巻
A5判 上製函装 定価3,000円(税込)
清文社
宗教法人の
税務調査対応ハンドブック
(宗教法人税制と法制の解説を含めて)
石村耕治編
A5判 780円
芸術生活社
老春詠歌 長生きの秘訣
御木徳近著
高齡期を快く生きるための「人生の道しるべ」
神宮祭祀の研究 中西正幸
神宮式年遷宮の歴史と祭儀 中西正幸
南雲堂
美容と健康寿命の秘訣!
認知症予防★お口の体操
『みんな笑顔、みんな元気!』DVD
監修・作詞:太田哲二
真田芳憲
禅僧内山愚童の抵抗
(大逆事件)と
白馬社
合掌ができない子どもたち
浄土真宗本願寺派福智院住職
三上章道
四六判 定価1,600円

「第78回三聖地巡拝」盛大に挙

奉祝 立教90年・解脱金剛70年 解脱会



御寺泉涌寺の境内にある解脱金剛宝塔の前で、「宝塔前の儀」が厳かに行われた(3日)

敬神崇祖・感謝報恩の真心で参拝

東京・四谷の解脱会(岡野聖法長老が主宰)は4月1から3日にかけて、「第78回三聖地巡拝」を挙

野聖法長老が主宰。解脱会(岡野聖法長老が主宰)は4月1から3日にかけて、「第78回三聖地巡拝」を挙

仏舎利の功德を説く 開教80周年記念し納経 釈尊降誕会 思親会



開教80周年を記念して会員らが書写した写経を、仏舎利塔内に納経後、飯島会長を導師に読経供養を行った

「皆さまと共に解脱金剛様に無事完遂のご報告をさせていただきます。この節目の巡拝で様々なことを学ばれたと思います。参加された一人ひとりが御教の伝道者としての覚悟を持て、今後の生活をしっかりと精進を重ねていくことを誓った。最後に、京都市伏見区の醍醐寺を参拝。『柴燈大護摩供』が厳修され、仲田順和座主が御教のありさまを語り、全行程を終了した。

世界中に笑顔の花咲かそう 「聖主・教主」誕生祭 善隣教

「聖主・教主」誕生祭 善隣教

善隣教(力久道臣教主)は3月20日午前10時半から、福岡県筑紫野市の本庁舎で、「聖主・教主」誕生祭を執り行い、同月29日に75歳を迎える力久道臣教主を迎える。信徒らは日々、信徒の幸福と健康を祈り、社会の安寧と世界の平和のために精進する聖主と教主に感謝し、さらなる健康と長寿を祈った。

「恩」を頂いたすべての方々へ感謝 千葉聖地「春の大法要」を厳修 妙智會教団

妙智會教団

東京・代々木の妙智會教団(宮本恵司法嗣)は3月28日午前9時半から、千葉県九十九里町の聖地大道場「春の大法要」を厳修し、また大法要は、大道場の

須弥壇を春の草花で荘厳。宮本恵司法嗣と宮本丈晴大導師に報恩感謝の誠を捧げ、「ご指導」と「ご法要」を厳修し、満堂の会員が玄題三唱し開式。青年部員による献灯・献華・献供の儀が厳かに行われた。

十九里町の大矢吉明町長に文化振興資金が贈呈され、宮本法嗣が「ご指導」に立ち、大法要は教主、大導師はじめすべてに感謝の気持ちを抱けるものである。この後、同寺境内にある解脱金剛宝塔の前で「宝塔前の儀」が行われ、岡野聖

さま、導きの親の恩は計り知れません。春の大法要はこうした数々の恩を頂いたすべての方々に感謝を申し上げる日なのです」とあらためて大法要の意義を強調した。この後、一同で「師を讃える歌」を斉唱。宮本法嗣は退場にあたり、大道場内の参拝者席を回りながら、笑顔で会員に手を振り、声をかけ、握手を交わすと、会場は大きな歓声に包まれた。この後、婦人部・青年部

健康を祈り、社会の安寧と世界の平和のために精進する聖主と教主に感謝し、さらなる健康と長寿を祈った。祝賀式では武茂茂樹理事長が式辞を述べ、「これからの10年間の志を教主様と偲んでいきたいと思います」と呼びかけた。続いて信徒を代表して戸畑教会の岡村光代教会長が「どんな時でも祈っていたらいい。幸せを感じ、誠心込めて精進していきたい」と、来賓を代表し、地方理事からの「ハッピーバースデー」を唱和し、地方理事からのプレゼントが続いた。

代表よりお祝いの花束が贈呈されると、参拝者全員で「ハッピーバースデー」を唱和し、地方理事からのプレゼントが続いた。力久教主は「御親教」で、信徒に謝辞を述べるとともに、「一人残らず笑顔の花を世界中に咲かせましょう」と述べた。

「脱宗教化」することから始まる。一生命は神聖にして不可侵という宗教的信念に基づく生命観・医療観を主張することが、異なる価値観と対話する必要がある。道徳観を有する人々との間で対話を妨げるものとならなければならない。生命倫理学者の言葉が響いた。続いて「医療にまつわる公的政策的な問題について、中立的な議論がある以上、中立的な議論の言語がどうしても必要になる」と述べた。

藤枝氏は「日本においては、中立的な生命倫理を意識しつつ宗教的な言葉の豊かさを失わないようにしながらも、自らの声明を発することが求められる」と問題提起した。



「ご指導」を行う宮本法嗣。大法要の意義を改めて説いた

来賓を代表し、金光教東尾教会の三宅光雄教会長があいさつ。祖父(三宅蔵雄師)の時代から、宮本大導師と宮本法嗣、長男・宮本泰克氏の親子三代にわたる、世界平和、宗教協力、交友を深めてきたことを、逸話を交えて語った。この後、宮本法嗣から地元・九

真人会(田中庸仁会長)は4月15日午前10時15分から、岐阜市の総本山真生寺で「創立39周年立教祭」を開催した。はじめに教団旗と各教会旗の「御旗」に続き、式衆が入堂。壮年奉獻隊、青年男子・女子、子ども会員らによる献灯、献供、胎内

仏の奉納など「奉獻の儀」が厳かに行われた。田中庸仁会長が入堂。婦人部が「ご詠歌」を奉納し

いけなしいと思います。今日の喜びを胸に自覚を持って布教伝道に動いんで頂きたい」と説いた。この後、宝塔に向かい、一同で岡野聖法長老の御教のありさまを語り、全行程を終了した。

「困っている人を救い、仏様のご縁に誘ってあげることが大切」と語り、その時は、手を抜かず、全力で取り組むことが重要だ」と述べた。

「困っている人を救い、仏様のご縁に誘ってあげることが大切」と語り、その時は、手を抜かず、全力で取り組むことが重要だ」と述べた。

「困っている人を救い、仏様のご縁に誘ってあげることが大切」と語り、その時は、手を抜かず、全力で取り組むことが重要だ」と述べた。

「困っている人を救い、仏様のご縁に誘ってあげることが大切」と語り、その時は、手を抜かず、全力で取り組むことが重要だ」と述べた。

「困っている人を救い、仏様のご縁に誘ってあげることが大切」と語り、その時は、手を抜かず、全力で取り組むことが重要だ」と述べた。

「困っている人を救い、仏様のご縁に誘ってあげることが大切」と語り、その時は、手を抜かず、全力で取り組むことが重要だ」と述べた。

「困っている人を救い、仏様のご縁に誘ってあげることが大切」と語り、その時は、手を抜かず、全力で取り組むことが重要だ」と述べた。

「困っている人を救い、仏様のご縁に誘ってあげることが大切」と語り、その時は、手を抜かず、全力で取り組むことが重要だ」と述べた。

人さまのため全力で布教を 創立39周年立教祭 真人会

真人会(田中庸仁会長)は4月15日午前10時15分から、岐阜市の総本山真生寺で「創立39周年立教祭」を開催した。はじめに教団旗と各教会旗の「御旗」に続き、式衆が入堂。壮年奉獻隊、青年男子・女子、子ども会員らによる献灯、献供、胎内

仏の奉納など「奉獻の儀」が厳かに行われた。田中庸仁会長が入堂。婦人部が「ご詠歌」を奉納し

いけなしいと思います。今日の喜びを胸に自覚を持って布教伝道に動いんで頂きたい」と説いた。この後、宝塔に向かい、一同で岡野聖法長老の御教のありさまを語り、全行程を終了した。

「困っている人を救い、仏様のご縁に誘ってあげることが大切」と語り、その時は、手を抜かず、全力で取り組むことが重要だ」と述べた。

「困っている人を救い、仏様のご縁に誘ってあげることが大切」と語り、その時は、手を抜かず、全力で取り組むことが重要だ」と述べた。

「困っている人を救い、仏様のご縁に誘ってあげることが大切」と語り、その時は、手を抜かず、全力で取り組むことが重要だ」と述べた。

「困っている人を救い、仏様のご縁に誘ってあげることが大切」と語り、その時は、手を抜かず、全力で取り組むことが重要だ」と述べた。

「困っている人を救い、仏様のご縁に誘ってあげることが大切」と語り、その時は、手を抜かず、全力で取り組むことが重要だ」と述べた。

「困っている人を救い、仏様のご縁に誘ってあげることが大切」と語り、その時は、手を抜かず、全力で取り組むことが重要だ」と述べた。

臓器移植に関する議論の非宗教化 教団付置研究所懇話会 生命倫理部会

教団付置研究所懇話会(時半から、京都市の浄土宗生命倫理部会(齊藤泰宗)が主催。今回の懇話会は2010年(平成22)年の改正臓器移植法の施行後、「脳死・臓器移植」についての宗教的見地から議論が深められてきた。生命倫理部会では、この機会に「臓器移植に関する議論の非宗教化」をテーマに、藤枝孝之助氏を講師として、生命倫理の観点から議論を深めたいと企画された。

藤枝氏は「生命倫理の観点から議論を深めたいと企画された。生命倫理の観点から議論を深めたいと企画された。」

藤枝氏は「生命倫理の観点から議論を深めたいと企画された。生命倫理の観点から議論を深めたいと企画された。」

藤枝氏は「生命倫理の観点から議論を深めたいと企画された。生命倫理の観点から議論を深めたいと企画された。」

藤枝氏は「生命倫理の観点から議論を深めたいと企画された。生命倫理の観点から議論を深めたいと企画された。」

藤枝氏は「生命倫理の観点から議論を深めたいと企画された。生命倫理の観点から議論を深めたいと企画された。」

藤枝氏は「生命倫理の観点から議論を深めたいと企画された。生命倫理の観点から議論を深めたいと企画された。」

藤枝氏は「生命倫理の観点から議論を深めたいと企画された。生命倫理の観点から議論を深めたいと企画された。」

藤枝氏は「生命倫理の観点から議論を深めたいと企画された。生命倫理の観点から議論を深めたいと企画された。」

被災地支援など議論 庭野平和財団シンポジウム 宗教学の公共性

庭野平和財団(庭野日鏡名誉会長、庭野浩三理事長)は3月17日午後2時から、東京・四谷の智恵大学で「宗教学の公共性」をテーマにしたシンポジウムを開催した。シンポジウムは、宗教学の公共性について、高谷忠嗣専任理事のあいさつで開会。高谷氏は「宗教学の公共性」について、高谷忠嗣専任理事のあいさつで開会。高谷氏は「宗教学の公共性」について、高谷忠嗣専任理事のあいさつで開会。

高谷氏は「宗教学の公共性」について、高谷忠嗣専任理事のあいさつで開会。高谷氏は「宗教学の公共性」について、高谷忠嗣専任理事のあいさつで開会。

高谷氏は「宗教学の公共性」について、高谷忠嗣専任理事のあいさつで開会。高谷氏は「宗教学の公共性」について、高谷忠嗣専任理事のあいさつで開会。

高谷氏は「宗教学の公共性」について、高谷忠嗣専任理事のあいさつで開会。高谷氏は「宗教学の公共性」について、高谷忠嗣専任理事のあいさつで開会。

高谷氏は「宗教学の公共性」について、高谷忠嗣専任理事のあいさつで開会。高谷氏は「宗教学の公共性」について、高谷忠嗣専任理事のあいさつで開会。

高谷氏は「宗教学の公共性」について、高谷忠嗣専任理事のあいさつで開会。高谷氏は「宗教学の公共性」について、高谷忠嗣専任理事のあいさつで開会。

高谷氏は「宗教学の公共性」について、高谷忠嗣専任理事のあいさつで開会。高谷氏は「宗教学の公共性」について、高谷忠嗣専任理事のあいさつで開会。

高谷氏は「宗教学の公共性」について、高谷忠嗣専任理事のあいさつで開会。高谷氏は「宗教学の公共性」について、高谷忠嗣専任理事のあいさつで開会。

高谷氏は「宗教学の公共性」について、高谷忠嗣専任理事のあいさつで開会。高谷氏は「宗教学の公共性」について、高谷忠嗣専任理事のあいさつで開会。

新宗連・WCRP日本委 提供 ラジオ「こころの HALF タイム」 1年5ヵ月にわたる放送が終了



「こころの HALF タイム」は全34回にわたり、被災地支援に貢献した。熊本地震の復興支援活動の一環として2016年11月から開始したラジオ放送「こころの HALF タイム」(熊本シティエフエム)が3月で最終回を迎えた。1年5ヵ月にわたるパーソナリティーを務めたWCRP日本委スタッフの有志が、熊本市に設置されたWCRP日本委の事務所から、1年5ヵ月にわたる放送が終了した。

宗教者、障害者支援関係者ら出演 被災者の心に寄り添う パーソナリティー 有路誠市郎氏に聞く

新宗連と世界宗教者平和会議日本委員会 WCRP 日本委の共催で、熊本地震の復興支援活動の一環として2016年11月から開始したラジオ放送「こころの HALF タイム」(熊本シティエフエム)が3月で最終回を迎えたが、1年5ヵ月にわたるパーソナリティーを務めたWCRP日本委スタッフの有志が、熊本市に設置されたWCRP日本委の事務所から、1年5ヵ月にわたる放送が終了した。



有路氏は「出演者すべての方から、被災者のために役に立ちたい、救いたい、という熱い思いを感じました。30分番組で毎日4回、第2・第4土曜日の午前10時から放送し、翌週水曜日の午後3時から再放送を行っていた。被災地にも何となく届いた宗教者や、被災者から「あなたはその話をよく聞いてくれた。あなたの背中にはキリスタが通っている。あなたにはキリスタを連れて来てほしい」と語った言葉に救われ、神に託された使命を感じた。

「震災支援に関わった宗教者、障害者支援関係者の方々からそれまで知らなかったラジオという媒体を通して、少しでも被災者の心に寄り添うことができたなら、そのことに感謝したい」と振り返る。

美しき日本の残像テーマに 日宗連 第6回宗教文化セミナー

日本再生、東洋文化研究 芳村正徳理事長は3月30日午後2時から、東京都港区の神道大ホールで「第6回宗教文化セミナー」を開催した。テーマは「美しき日本の残像―古民家の再生と存在―」。

芳村正徳理事長は「美しき日本の残像―古民家の再生と存在―」をテーマに、古民家の再生と存在について講演を行った。芳村氏は「美しき日本の残像―古民家の再生と存在―」をテーマに、古民家の再生と存在について講演を行った。

子どもオンライン相談の実際 全青協 指導者研修会を開催

全青協(全日本青少年教育協会)は3月29日午後1時から、都内のホテルで平成29年度指導者研修会を開催した。「SNS時代の子どもへの寄り添い」をテーマに、指導者の研修を行った。

法律と制度が差別生む 第38回「同宗連」総会

「同宗連」(同宗連連帯会)は4月17日午後1時から、東京都文京区のカトリック東京カテドラル聖マリアの教会で第38回「同宗連」総会を開催した。

密教の世界観を 写真と舞踏で表現

「密教」の世界観を表現する写真と舞踏の展覧会が、東京都台東区のアートギャラリーで開催された。

新刊紹介 大逆事件と 神僧内山愚童の抵抗

曹洞宗の僧侶、内山愚童(1874-1911)が1908年(明治41年)手刷りで刊行した「大逆事件と神僧内山愚童の抵抗」が、新刊として出版された。

宗教者著選第4巻 祈り

「祈り」は、宗教者著選第4巻の1冊。フリードリヒ・ハイラー著、丸山 広大宮崎 俊一訳。本書は、ドイツ宗教学者フリードリヒ・ハイラーの著書「祈り」を、1918年の初版刊行から百年を迎えて邦訳したものである。

「大逆事件」と 神僧内山愚童の抵抗

曹洞宗の僧侶、内山愚童(1874-1911)が1908年(明治41年)手刷りで刊行した「大逆事件と神僧内山愚童の抵抗」が、新刊として出版された。

密教の世界観を 写真と舞踏で表現

「密教」の世界観を表現する写真と舞踏の展覧会が、東京都台東区のアートギャラリーで開催された。